

第1689号

10

2025年

ISSN 0039-4866

水産総合月刊誌 明治25年 9月26日第三種郵便物認可 令和7年 9月25日印刷納本
令和7年10月1日発行(毎月1回1日発行 第1689号)

水産界

- ◇ 第27回シーフードショー開催
～ 約650社・団体が出展、約28,000名来場 ～
- ◇ ノルウェー WS・水産業視察



盛会を祈念して盛大な鏡開き

ハラルビジネスでニッチトップ戦略 ③1

世界中におよそ20億人存在するといわれるイスラム教徒。その膨大な人口を背景に、ハラルマーケットは今、輸出・インバウンドの両面で急速に拡大しています。

本連載では、一般社団法人ハラル・ジャパン協会が推薦する、ハラルビジネスを実践する企業を取り上げ、今後の市場動向とその可能性を掘り下げてまいります。

企画：一般社団法人ハラル・ジャパン協会 ホームページ：<https://jhba.jp>

株式会社リナイス

サーモンの頭から抽出した成分（プロテオグリカン等）を健康食品や化粧品に活用すべく機能性原料の製造販売を展開するリナイス株式会社。

本社・研究室・工場を北海道におく、原料製造及び受託製造会社。

「鮭が持つ力を世界へ」

～コーシャ認証に続いて、ハラル認証も～

北海道産鮭に着目し、鮭がもつ力とその可能性を発信し続けています。

東南アジアを中心に輸出を拡大する中で、コーシャ認証に続いてハラル認証の取得にも踏み切った背景や、認証取得後の変化、そして今後の課題と展望について、今回は中野社長にお話を伺いました。

リナイスのプロテオグリガンができるまで



——ハラル認証を取得したきっかけは何ですか？
一番のきっかけは、やはりお客様からの声でした。

東南アジア諸国への輸出はハラル対応が必要ということは理解していましたが、引き合いなどのお客様からもハラル認証について聞かれることが増え、またその需要が高かったことが大きなきっかけになります。

——今回ハラル認証を取得した商品について教えてください。

現在、認証を取得しているのは原料5品目です。

健康食品、化粧品、サプリメントなどに活用されています。

例えばプロテオグリカンは、肌の保湿や関節の柔軟性を保つ成分として注目されていて、海外でも関心が高まっています。

——認証取得にあたって、苦労された点はありましたか？

初回は特に、どこを見ればいいのか、何を準備すればいいのか分からず、手探りの状態でした。書類の準備や工場検査もあるので対応が重なることもあります。

ちょうどGMP認証の取得時期と重なってしまったのもあり、社内のリソース配分も難しかったですね。

ただ、商品を選定し絞ったことが功を奏し

たのか、チェックに引っかかる点は少なく済んだように思います。

製造する原料全てに対応（認証取得）していくのもなかなか厳しいので費用対効果を考えながら進めることも良かったのかもしれません。まずは対応できる範囲で認証取得をすることで、無理なく運用できています。

そしてもうひとつ大変だったのは、原材料のトレーサビリティです。仕入れ品の原料まで把握するのはやはり難しいので、取引先に確認を取る作業が必要でした。認証制度を理解している会社もあれば、まったく知らない会社もあり、状況を説明するのに少し時間を要しました。

——認証取得後は、どのような変化がありましたか？

もともと需要があって、その要求に応じて認証取得に動いたので、何か大きく新しく変化したというより、認証を取得したことのお客様からの需要や市場に適應できるようになった、と言うほうが適切かもしれません。もっとも、商社などへのアプローチにおいて認証取得が一つの強みとして評価され、ビジネスがより円滑に進むようになったことは、確かな変化と言えます。

——主に輸出している国と、海外での反応について教えてください。

現在、売り上げでいうと全体の30%程が海外輸出で、主な輸出先は韓国、台湾、米国、マレーシア、タイ、ベトナムですね。

日本でもそうですが、やはり中高年の方々向けロコモ訴求商品が人気です。

特にマレーシアやタイでは、健康面で膝のケアサプリメント、美容面ではアンチエイジング用健康食品・化粧品などが好評です。

——今後の課題と展望について教えてください。

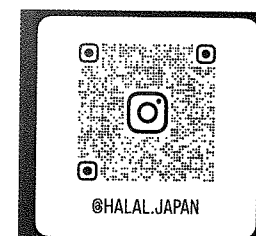
業界の課題としては、水揚げ量が年によって大きく変動するので、その手当が重要になってくるかと思っています。安定供給は原料メーカーとしての責務ですので、今後輸出が増え、安定供給に不安が生じないように準備しています。

弊社は北海道産のサーモンを原料に使っている製品ですが、海外産や陸上養殖のサーモンを使用することも視野に入れます。特に国内では陸上養殖のサステナブル化を進めようと大手商社は動きを活発化させてきているようなので、その利活用検討を進める予定です。今後の展望としては、中東市場への展開も視野に入れていきたいと考えています。

最近ではインドもそうですね。中東・インド進出を目指すことはつまり、必然的に各国の認証制度への理解と対応が課題になってきます。

各国輸出入のレギュレーションは厳しくなっていますので、中東展開を目指しつつも米国GRAS認証取得を確実に進め、さらに東南アジア地域国の動向を見ながら慎重に判断していきたいと思っています。

*ハラル・ジャパン協会を応援してください！



Instagram：<https://www.instagram.com/halal.japan?igsh=MWI3enIycjh0ZTRkgb==>
Facebook：<https://www.facebook.com/halaljapan/#>

いいね・フォローよろしくお願いします！

(一社)ハラル・ジャパン協会 事務局 広報PR 株本あいか